

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500189		
法人名	社会福祉法人 小林市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム茶のん村 おんわ		
所在地	小林市南西方1906-1		
自己評価作成日	令和5年8月10日	評価結果市町村受理日	令和5年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和5年9月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の利用者様に合わせた個別ケアを提供している。傾聴心を常に考え、利用者様本意で物事を考えられる。居心地よく最後までここで暮らしていきたいと思えるような手厚い介護を実践していく。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは社会福祉法人運営で、同敷地内に小規模多機能ホームを併設している。職員は運営推進会議を合同で行うなど良好な協力関係を築いている。令和4年4月開設でコロナ禍により何事も計画通りに行う事が難しい状況であるが、全職員が理念の意義を理解し、利用者がその人らしい生活を笑顔で送れるよう一丸となって支援に努めている。日常的な活動としては、動画配信サイトを活用した利用者に馴染みの地域の映像が視聴できる諸県弁バージョン体操や、マッサージ器やメドマーを使ったり、広いデッキでの歩行訓練などを行っている。3名の職員が看護師免許を持っており利用者、家族共に安心した生活を送っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をみんなで作成し、意義を踏まえたいケアが提供できるよう、朝礼時に唱和し、みんなで共有しながら実践につなげている。	理念は、地域密着型サービスの意義や役割を全職員で確認し、ミーティング等で意見の統一を図り作成したものである。ホームの名前『おんわ』を織り込んだ理念を意識して日々の介護に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であったということもあつたり、5類に引き下げになったとはいえ、まだ制限もある為、出来ていない。	開設当初よりホームでオレンジカフェを開く計画等々あるが、コロナ禍で思うような地域との交流はできていない。現状は運営推進会議のメンバーや、市の広報誌を利用した限られたものである。	コロナ禍も様子を見ながら少しずつ当初の計画を実行され、事業所と地域住民の良好な双方向的関係、また自治会加入やボランティア受け入れ等に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現段階ではまだ地域貢献ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を開催し、地域の方々の代表の方々に対し、状況報告を行っている。いただいた意見を参考に今後の運営に活かしていきたい。コロナ禍ということもあり、施設内の見学は控えていただいた。	コロナ禍ではあるが、直接地域の方々と話のできる貴重な場であり、十分に注意しながら併設の小規模多機能と合同で開催している。メンバーから事故が多いとの意見が出て、全職員で話し合い見直しを行った結果以前に比べ改善している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は積極的に取れていて、協力関係を築けている。(介護タクシーの利用等)	運営推進会議のメンバーであり、生活保護受給利用者の介護タクシー利用についてや、感染症対策の連絡、質問、相談など連絡は密にとっている。また市からのアンケートなどには積極的に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を立ち上げ、身体拘束についての勉強会を実施しており、適切なケアを行っている。	社会福祉協議会で3か月に1回行っている勉強会に担当者が参加している。持ち帰った資料等は全職員が共有しており、月1回のミーティングでも身体拘束の知識等の向上を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会や研修に参加し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者に被後見人がおり、後見人との連携を図っている。しかし、日常生活自立支援事業や青年後見制度等については、まだ勉強は必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時に園長とケアマネが説明してご家族に納得していただき、書類は一部交付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された際に、状況報告等を行い、意見や要望等があれば受けている。運営推進会議の委員(家族代表)にもなっており、その中で運営に反映させるようにしている。	利用者からは日常的に、家族からは3か月に1回の担当者会議時に、意見の出しやすい雰囲気づくりに気を付けながら聞いている。最近外出、外泊希望があるがコロナが地域的に増えており、実現には至っていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを行い、話し合いをしている。	管理者は日頃より職員が話しやすい環境づくりに努めている。職員からの意見で朝の活動や、体操の進め方などのタイムスケジュールを見直した。また家族からの差し入れについても改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の経営会議を行っており、現場での状況報告等により、現状の把握を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者育成研修等を行い、スキルアップの機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流はできていないが、法人内での事業所との研修や勉強会に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛けや傾聴から始め、要望に応えられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームについて内容の説明をしている。話を聞き、職員全員が答えられる様、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みがあった時点で、調査を行い、事業所のサービスと本人の希望されるサービスが合っているかを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛け会話を重要視し、気付きをもち築いている。できる日常生活動作はできるだけ本人にして頂いたり、役割を持って取り組んで頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の話を傾聴し昔の話等、同調している。	コロナ禍のため短時間ではあるが、ドライブで利用者が住んでいた家を訪れ玄関先で写真を撮ったり、花を見に行く事もある。また動画配信サイトで西諸弁バージョン体操があり馴染みの場所が出るので楽しく活用している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりひとりに目配りをして孤立化しないよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談には、応じるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに思いや意向を尋ね、希望に応じられるよう努めている。	職員は日頃から利用者寄り添い、表情や言葉から希望や意向を把握し、全員で共有している。困難な利用者には、筆談やジェスチャー、クローズドクエスションなど本人本位の視点に立ち把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	時間を見て利用者とは話す機会を作り、把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康観察や、食事量・水分量を確認して、状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング等で話し合いをし、作成している。	担当者会議には家族も必ず出席しており家族の意向や、利用者の担当者からの日常の気づきなど、関係者全員の意見を介護計画に反映させている。状態に変化がある場合には随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月、計画の評価を行っている。必要であればミーティングなどで話し合い、見直しも行うようにし情報共有している。		

宮崎県小林市 グループホーム「茶のん村おんわ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時できることを支援しながら、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院の通院時に介護タクシーを利用したり、地域の理美容院に出張サービスをお願いしている。また、地域の方と一緒に花壇の手入れをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供しながら、適切な支援に努めている。	ほとんどの利用者が入居前のかかりつけ医を受診している。基本的には家族対応であるが、困難な場合は職員が付き添うこともある。結果や情報は申し送りノートなどで関係者全員が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が状況報告書を作成し、病院受診時に提出している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供をし、共有できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と連携を取り、病院とも相談しながら取り組んでいる。職員間ではミーティングなどで話し合いをしている。	看取りについては家族からの希望はあるが、今のところ行っていない。本人、家族とは入居時にホームでできることについて十分説明し、できる限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング等で話し合いや手順は把握できているが、実際に訓練ができていない。今後取り組んでいく予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在、できていない。今後、訓練等に取り組んでいく予定。	開設後間もなく、コロナクラスターが発生したため計画していた災害訓練は行っていない。今年10月に消防署立会いの下、初めての訓練を行う予定である。備蓄品は準備している。	不測の事態に備えた連絡網の作成、地域住民の参加など関係機関との連携協力体制を整備し、人命安全に考慮した計画の強化や、年2回以上の訓練を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時々に応じ状況を確認しながら、丁寧な言葉遣いや接し方に注意し対応している。	利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉遣いや、声かけに配慮している。トイレ誘導時のカーテンやベッドでのおむつ交換はドアを閉め、特に誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向や希望に添うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日の流れのスケジュールを設定しているが、本人の希望を最優先に考えながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に入浴後や、起床時など整容に努めている。定期的な理美容院のサービスを提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片づけはできる方に役割として持たせていただきながら、職員と一緒にしている。	昼食と夕食は、同系列他事業所の管理栄養士による献立の食事である。朝とおやつ等のイベント食は利用者と話し合っ作っている。一緒に買い物に行ったり、敷地内で育てた野菜を使うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表等を確認しながら、毎日確実に把握できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人で出来ない方は職員が対応し行っているが、自分で出来る方には個人でしていただき、見守り・確認行いながら口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、声かけている。	排泄パターンの把握に努め、声かけやトイレ誘導を行っている。ポータブルトイレや夜間用パットなど、時間帯により排泄用品を変えている。6人(見守り含)の排泄自立者がおり出来るだけ長く継続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物など提供する際、工夫して提供したり、歩行運動を取り入れたりしながら体調面にも気配りしている。また必要であれば、病院に薬の相談なども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員体制等により、入浴の曜日・時間を決めており、利用者様の希望に沿った入浴サービスの提供はできていない。	入浴は週に2回～3回入浴担当の職員が行っている。回数は希望、要望があれば出来るだけ応えるように努めている。入浴剤を入れたり、長湯の希望や湯加減などは利用者本位の支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理している。服薬時には職員間でダブルチェックするなどし、誤薬のない様、努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割としてお手伝いして頂いている。ゲーム等で気分転換を図っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節のお花見等で出かけられる様、支援している。昨年はコロナの関係で出来ていなかったが、今年は希望に添えるよう外出等も支援していきたい。	ホームは敷地が広く、野菜や花が植えてあり東屋もある。また広いデッキにはベンチが置かれ、日常的に散歩や日光浴を楽しむことができる。コロナ禍のため頻繁に長時間の外出はできないが、たまにドライブもしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は所持されていない。職員体制は整わず実行できていない。病院受診帰りなどのタイミングで職員と一緒にお店に寄り、本人の好きな物を購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に季節の花を作成したり、壁面等の飾ったり、月のカレンダーの色塗りなどに取り組んでいる。カレンダーは自室に飾っている。	玄関前の花壇には季節の花が植えてあり、利用者は自分の花を一人一鉢ずつ持っている。ホールの壁には皆で作成した季節の作品などが飾られ生活感や季節感も窺い知れる。感染症予防の対策にも十分留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で座られたり、近くの隣席の方とも笑顔で会話を楽しまれておられる。これから先も過ごしやすい環境を提供していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンスやテレビ、コタツなど長年愛用されてきたものを自宅より持参され使って頂いている。	部屋は利用者にとって使い勝手の良い安心した暮らしができるように配慮している。馴染みの机と椅子を置いて毎日ノートに新聞を書き写している方や、お琴を持参している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく本人の意向や希望に添うようにしている。障害物にならない様、気配り・目配りを行いながら、配置なども考えている。		